



福井 節子 議員

国の悪政に苦しむ市民や弱者に寄り添う市制を

障がい者福祉サービスと介護保険サービス、利用者に寄り添った対応を！

個別にケース会議を行い判断している

消費税増税は社会保障に

使うとしながら、年金の引下げ、後期高齢者医療制度の継続と改悪、介護保険の改悪など社会保障は悪くなるばかり。その上、市も国保税・水道料金の引き上げ、駅前駐車場や公民館の利用料金の引上げなど市民の生活を脅かす事態だ。国の悪政から防波堤となって市民を守るのが市行政の役割だ。



新旭駅構内 バリアフリー化の早期実現を

問

障がい者が65歳になると、障がい者福祉サービスから介護保険に移行する。しかし、障がい者福祉サービスも受けることができることから、丁寧に分かりやすく周知をして、利用者に寄り添った対応を。

答

健康福祉部長
一律に介護保険に移行せず、状況や生活実態を勘案し、個別にケース会議を行い判断しています。

問

増える生活保護世帯に、「積極的支援」が必要だ。見逃さず、自立への支援を。

答

健康福祉部長
また、制度の矛盾による不利益とならないよう活用するのは職員だ。異動する際は、キャリアを生かし、さらなるスキルアップを図り適切な対応を。

問

予約制のデマンドタクシーのさらなる増便と、幹線道路にあるバス停を集落内まで延伸し、利便性向上を。

答

土木上下水道部長
利用実態や赤字路線の補助金をこれ以上増やせないことなど、整合性を図りながら検討したいと考えます。

問

新旭駅エレベーターの基本構想策定予算の減額が提案された。市長は「庁舎位置条例が議会で否決されたため、整備の可能性がなくなった」とJRから伝えられた」と議員に説明された。しかし、JR京都支社へ要望に行き質問したが「市とは改めて話します」と回答された。市の姿勢が問われる。

答 市長

昨年来、JR京都支社長に市役所の集約を含めた駅周辺の改修構想を説明しながらエレベーター設置の可能性を探ってきました。しかし、9月定例会での庁舎位置条例改正案の否決を受け、JRと市で協議を行い、今年度の策定委員会へのJRの参画は困難と両者で確認したものであり、事実上本年度での着手はできないと判断し、予算の削減を提案したところです。

問

市は市民の願いであるエレベーター設置推進の立場を貫き、予算の取り下げではなく継続すべきでは。

答

土木上下水道部長
バリアフリー整備の必要性は十分承知しています。引き続き協議を行い、JRの参画が見込まれる状況に至った時点で改めて予算計上を行います。